

『米国の社会起業家事例から、日本の地域・社会変革を考える』

若手社会起業家による訪米プログラム報告会

地域コミュニティから生まれるソーシャルイノベーション

(株) ジャパンエリアマネジメント
西本 千尋

nishimoto@areamanagement.jp



地域コミュニティから生まれるソーシャルイノベーション

テーマ1 地域再生事業のインパクトの明示

テーマ2 地域再生事業のスケールアウト

テーマ3 地域再生人材育成手法

テーマ1 地域再生事業のインパクトの明示

◆抱える課題

地域再生という文脈で出される、政府・自治体等からの補助金や民間助成、寄付等をもたらすことに、ある種、引け目を感じていた。



そんなことにビクつく暇があったら、

あなたの団体が
地域コミュニティに
どんなインパクトを及ぼしているか

を、ステークホルダーに
ありとあらゆる手段で
明確に伝えることから
はじめなさい。

Common Ground Community (CGC)

創設者・最高経営責任者

ロザンヌの一言



「政府は間違った買い物をしているわ」



CGCの路上生活者への サポーターティブハウジングのコスト 一泊36ドル（年間130万円）



一泊36ドルに対し、
同等の行政提供のサービスと
比較してみよう。

市営緊急避難シェルター	一泊54ドル
州刑務所ベッド	一泊74ドル
市営刑務所ベッド	一泊164ドル
精神病院のベッド	一泊467ドル
病院のベッド	一泊1185ドル

私たちのような
インパクトのある
商品に買い替えたなら？

「政府は間違った買い物をしている」



「私たちは政府より低コストで
ハイパフォーマンスの

商品を持っている。」

■ 対政府

「ある課題の解決モデルについて、
政府のコスト削減を提示して、
政府より投資を導くこと」

+

■ 対投資家

「ソーシャルリターン含め、
信頼できる投資先であるという
ことをしっかり伝え、small investor
一個人投資家より丁寧に資金を集めること」

私たちは自分たちが
つくりだしていない、または
理解されるように示せていない
ことを棚にあげて
安易な行政批判を
していないだろうか。

私たちは果たして、
政府にも投資家にも
明確なインパクトを
与える商品を
持っているだろうか？

なんとなく地域にいいこと
よさそう、少なくとも
悪くはなさそう・・・

っていうことの

本当のインパクトを
みんなで今一度、考えて
明確にしてみよう。

そんな必要があるんじゃないか。

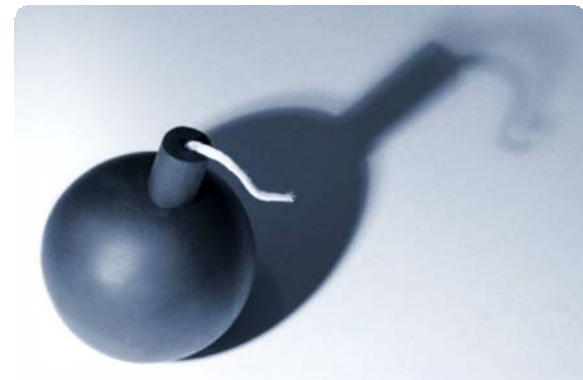
そうすれば、こんな風に
堂々としてられる



テーマ2 地域再生事業のスケールアウト

◆抱えている課題

5年目になり、実績をみて、依頼された地域へ出向いてしまayoうになった結果、より少ない資源投下で「インパクト」最大化を図る「水平展開」が全く達成できていない。



Common Ground Community (CGC) の水平展開のポイントは？

「シンボリックな
インパクトを与えられること」



シンボリックなインパクト
(場所の選定) 重点的な水平展開先はここよ！

ロサンゼルス



ニューオリンズ



ワシントンDC



シンボリックなインパクト
(人の選定) チェンジエーजेントの見極め

地域の中に適切な
「チェンジ・エーजेント」を
見つけられるかが鍵



「チェンジ・エージェント」の資質

課題解決能力が高いこと

地域のリソースを信じる事が出来ること

仲間づくり、組織づくり、
人脈づくりがうまいこと

ミッション志向であること



テーマ3 地域再生事業の支援スキーム

◆抱える課題

セミナー、研修、コンテスト等、ありとあらゆる担い手人材、資金支援がなされている。

より多くの担い手による、よりインパクトの高い事業を立ち上げ、それを加速させるのに、有効な地域再生分野の支援のあり方。



「公共事業に代わり、稼げる産業」は
スモールのクラスターから！



スプラウトファンドのモデル

2001年スタート

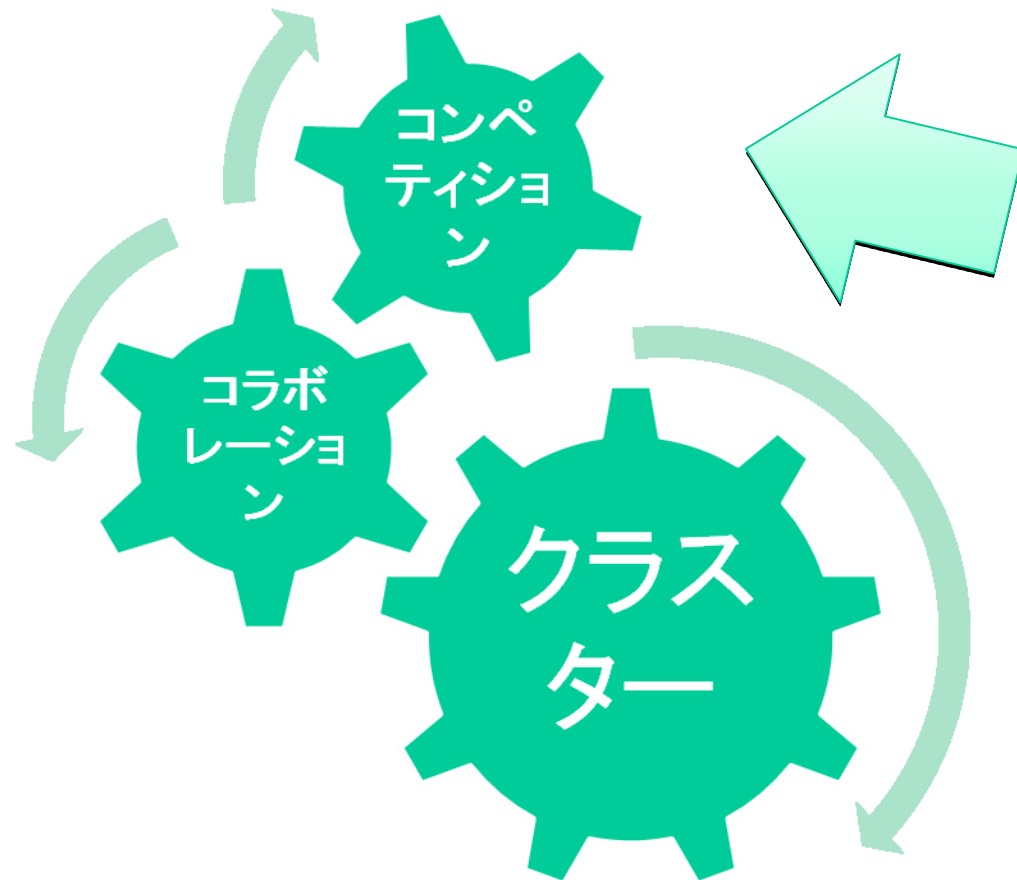
ピッツバーグ内において

18歳～40歳（特にアーティスト、デザイナー、起業家、学生、研究者、ミュージシャン、写真家等）の行う地域再生プロジェクトに対して

少額助成（5万～100万くらい）



「エリア内」の「継続的」な少額助成で
地域に内発的なスモールビジネス
が多数興る



少額助成



目に見える変化をまず起こす

VISIBLEなインパクトは
人々のプライドを取り戻し、
より多くの賛同、参加を導く



Leadership Pittsburghのモデル

ピッツバーグ内において

経営者、NPO、医者、建築家、看護師、教師など
多様なバックグラウンドの人

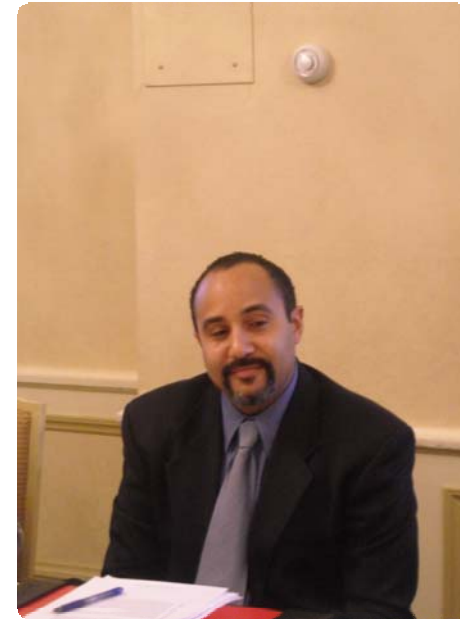
地域の具体的な課題解決について、グループで討論

年間一人30万の会費で運営



「みな、NYやサンフランシスコへ出て行ったけれど、自分は弁護士として地元に残った。そんな自分にこの団体は顔の見える非常にパーソナルな人的つながりをくれた。」

(Mr. James Wallace)



「地域内の多様なバックグラウンドの人、いろいろな視座の人に会うことができる場。」

(Ms. Gail Shrott)

